

未来へつながる花巻の「地

域づくり」

人口減少や少子高齢化などが進み、地域の課題が多様化している今、持続可能なコミュニティのあり方を探る懇談会を開催しました。

市

では市内に27のコミュニティ地区を定め、地域の自主的なまちづくりを進めてきました。27コミュニティ地区では、振興センターを拠点に「コミュニティ会議」を設置。地域課題の解決に取り組んできました。しかし合併して10余年、人口減少や少子高齢化などが進み、地域の課題は多様化。これまでの仕組みでは対応が難しくなっています。

■キーワード「二つのソウイ」

懇談会は岩手大学農学部教授の広田純一さんを座長、役重眞喜子市コミュニティアドバイザーを副座長に開催。NPOや福祉、防災、コミュニティ会議、子育て支援組織などから15人が参加し、地域の現状と課題を話し合いました。キーワードとして示されたの

■二つの視点での意見

【総意の立場から】
▼役員の疲弊、マンネリ化▼若い世代が参加しない▼ふれあい、交流をメイン活動にしている

【創意の立場から】
▼地域組織には女性や若者、転入者が入りにくい▼「コミュニティ地区」に限定せず広域で活動したい▼「これをやりたい」という明確なテーマがある

現在本市のコミュニティ会議は、「総意」と「創意」両方を担う仕組みです。しかし、そのことでコミュニティ会議が役割を抱えずではないかという意見が出ました。

■懇談会から見えてきたこと

3回にわたり開かれた懇談会で出された意見から、本市の地域自治に関する課題解決に向けて見えてきたことは次の三つです。
●各種組織や役の見直しなどから、コミュニティ会議をもっと気軽に

地域づくりに大切なキーワード「二つのソウイ」

総意

- 全員に関わる
- 住民同士の支えあい
- 合意や納得が大事(時間がかかる)

地域自治

創意

- この指とまれ
- 気付いた人からする
- オリジナリティやスピード感が大事

地域づくり

人口減少と過疎化が進む中
①「地域は何をどこまで」するべきなのか
②コミュニティに私たちは何を求めるのか

は、地域自治の仕組み「二つのソウイ」(総意・創意)。「総意」は地域自治の基本で、一斉清掃や、防災・防犯活動など、住民全員に関わることを指します。もう一つの「創意」はイベントや地域資源の活用など、気付いた人から動く地域づくりを表します。懇談会では、それぞれの視点から意見を出し合いました。

- 「小さな創意」の実現応援などから創意活動を育む
- 行政区とコミュニティの役割の明確化や、地域ともしっかりつながる市職員の育成など、行政との連携充実

■目指すべき地域自治の姿

市では持続可能なコミュニティであり続けるために▼地域にしかできないこと、本来の役割を▼若い世代、女性など多様な力をつけて▼持続的に守っていくーを目指したいと考えています。そうあるために本年度も引き続き、意見として出された地域自治に関する課題の解決に向けて懇談会を行う予定です。



平成30年度に開催した懇談会の様子

voice 持続可能な地域づくりのために



花巻市コミュニティアドバイザー 役重 眞喜子 さん

若者の「できる」「楽しい」を見守ることが大切

これまで自治会や町内会中心で地域を支えてきました。しかし、一生懸命頑張ってくれていた人たちが疲弊してきています。

地域は全員野球でないと成り立ちません。なんとなくでも地域の中の人や状況が見えてこそ、いざというときに助け合えますが、それが崩れてきてしまっています。

若い人たちが地域に参加するには、周囲が彼らのやる気や創意をじっくり見守ってあげることが大切。既存の活動を「手伝ってもらおう」のではなく彼ら自身が「できること」「楽しいこと」を見つけ、取り組むことで生まれた世代間の交流が、顔の見える地域づくりにつながります。地域には力を付けている若者が育っています。そういう人と足元の地域とのつながりづくりが、今後取り組むべき課題の一つです。

地域を守ることは、戻れる場を守ること

笹間若手企画会議は1年ほど前に立ち上がり、現在は20代から50代までの約20人で活動しています。2月にスノーモービル試乗会を雪上運動会「雪っこ祭り」と同日に開催しました。地域の次代を担う子どもたちの笑顔、SNSで発信したいと思い企画しました。地元を離れた人たちが戻れる場所を守ってあげることが、地域の役割だと思います。そのためにも若手の力が必要です。若い人の「こんなことができたらいいな」という声を実践して、SNSなどで外に発信することを、これからも続けていきたいですね。



笹間若手企画会議 会長 高橋 博明 さん